

こども一鶴間通信【No.183】

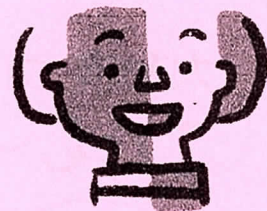
より多くの方にご利用いただける様になりました。  
皆様のお越しをお待ちしております。



～笑顔ではぐくねっと～ スキルアップ講座より

# 『子どもの育ちと文化の多様性』

—子どもに求めるものが違ってきた—



講師／高橋勝氏（東京福祉大学）

## 自然としての子ども

経済社会が押し寄せる前の社会

神からの恵みで自然が育てる  
地域で皆で

赤ちゃんは  
授かり物



神仏と共に七五三・成人式と大人になる  
(植物の生長のように) 最低基準で大人に  
なれた。力仕事ができる。畑仕事ができる。  
これで立派な大人

現在：経済社会の発展した社会

子ども達を意識して作り出す現代・学校に通  
い経済社会を生きてゆく人間(人材)を育てる。  
学校・地域・社会となっている。社会人とし  
て望まれる人材となる為には、ハードルが高  
い。このハードルはどんどん高くなる。経済  
産業省が望んでいるのは前に踏み出す力・考  
える力、チームワークが要求される。

子どもは自然なものである。地域で家族で学校で出会った身近な他者によって受容され愛されながら甘えられる環境があった。まるっと「ありのまま」でいいんだと包まれながら育つことにより積極的に生きる原動力となり、さまざまな「気」(元気・勇気・やる気・気概・・・など)を発することができた。多種多様な神々や大人たちが子どもをまるごと受容し見守る社会だった。

地上は見えるのでなんとか  
働きかける。意識的・意図的・  
教育的・道徳的・社会的  
コントロールしながら  
望ましい子を作りあげる



子どもの生きるエネルギー(気)の源は  
どこから生まれたのか細々とした日常社会  
の中に発生する小さな問題処理の中から、  
日々の成功体験からなのである。しかし、  
大人達指導者にあれやれ!これやれ!こう  
あるべきだ!と言われながら育てられ、自  
分のやり方で問題解決を試行錯誤して自分  
で答えを出す環境作りがなかった。子ども  
流のやり方で良いのである。

観えない部分 ・無意識的・夢中 大自然での受容(どれだけ自然と関わってきたか) 他者との関わり  
(地域・家族・学校・集団) 基本的欲求の充足(皆に甘えられ抱きしめられ愛される) 養分・水

## 授業のあり方

自分の考え・自分の意見を周囲のみんなに理解してもらい、認めてもらうと言う経験の積み重ね、これが自己肯定感や社会参加意欲の向上につながる。子どもは「甘え」「失敗」が不可欠。受容的な学校文化を作る。正解を求めるのではなく「自分の考え、自分の意見」を出すことを奨励する。

世界を見てみると(欧米)学校の授業の仕方

日常に近い状態で遅く来ても、よく来られたと対応  
緊張させない。我慢させない。ストレスを与えない。

プライベート(私的・個人)な  
意見がパブリック公的な意見と  
して吸い上げられる。

コの字型に机椅子が配置され、仲間とおしゃ  
べりする感覚で授業が進む。

先生はお茶飲みながらおしゃべり感覚で  
制服や校則もない  
皮膚の色や髪の毛の色が違うのは当たり前



取材：館合みち子

イラスト／フジコ